

【1 分解説】型式認証とは？

総合調査部 政策調査グループ 研究理事 重原正明

型式認証（かたしきにんしょう）とは、国や公的機関による、大量生産される工業製品の品質認証において、個々の製品の検査に代えて、サンプル品、設計、生産体制等を検査することにより、同形式の製品の品質を認証する制度のことです。

人の生命に重要な影響を与えるような工業製品には、品質を保証する公的な認証制度がある場合があります。この際、大量生産による品質の安定した製品を個別に検査することは、検査機関にも生産者にも負担が大きいため、同じ形式のものにつき一括して品質を認証するのが型式認証です。

型式認証は製品により様々な呼び方がされます。自動車、ドローンでは型式認証、汽笛等の舶用品では型式承認、航空機では型式証明と呼ばれます。携帯電話の技術基準適合証明（技適）も基本的に型式認証に依っています。また型式認証と個別の検査を組み合わせるような制度もあります。

型式認証が取れない、あるいは取り消された場合には、製品一つ一つについて検査が必要になり、事実上その製品の販売が不可能になります。このように大きな影響を持つ型式認証ですが、その基準は時に複雑、あいまいとされ、高度なノウハウが必要な場合もあるようです。製品の開発においては、製品自身の品質性能とともに、型式認証対応などの広義の知財戦略も重要な要素となっています。